



# 福生二中だより

No.10

令和8年2月2日発行

福生市立福生第二中学校

TEL 042(551)1970

校長 平井 貞昭

## 「言葉の大切さ」

言葉のもつ不思議な力のことを「言霊」と言いますが、言葉にはとても大きな力があります。だからこそ、ふだん何気なく発している言葉の大切さについて御家庭でも話題にしていただきたく、共有させていただければと思います。次は、AさんとBさんの会話です。

A あのゲーム、くそヤバかったっしょ。

B ああ、エグかった

A っつか、おまえ台パンしすぎ。あれまじヤバかった。店員ガン見だから。

B くそウザ。

A っつか、おまえがウザ。

B は、死ねよ。

A お前が死ね。



この会話は最近の中学生の会話としてしばしば見られる光景とのことで、この会話のように「ヤバい」、「エグい」、「ウザい」という短い言葉で多くのことを表現することで誤解が生じトラブルに発展することが多いそうです。この会話を主語や必要な言葉を加えて表現すると次のようになります。

A あのゲームすごく展開が早くてやっているのめりこんじゃったね。

B うん。僕は映像がすごくかっこいいと思った、でもA君夢中になって興奮して台を叩いていたよね。店員さんが見ていたよね。

A お店の人に悪いことしたな。

B これから気を付けたほうがいいよね。

このように、主語や必要な言葉を的確に使うことで状況を正確に把握でき、トラブルになることはないそうです。

2つの会話を見ると、明らかに「語彙力」の違いが見て取れます。例えば、お子さんが、「お母さん水」と言ったら、水を汲み、差し出すのではなく、「水がどうしたの?」と聞き返し、「お母さん、私、水が飲みたいから、水を汲んで」と、前者のように短い言葉で会話を成立させるのではなく、後者のように主語や必要な言葉を的確に使った会話が成立するように促すことが大切だと思います。お子様が、社会性を身に付けるためにも、家庭教育の一環として、日々の何気ない会話をブラッシュアップしていただくと幸いです。

# 各学年の取組 ～魅力ある学校づくりに向けて～

## 第1学年

3学期の最初の学年集会で、学年としての目標を伝えました。2年生「学校の中核となる存在」に向けて、「やるべきことを考えて行動する」ことを筆頭に、様々な目標を伝えました。これまでも伝えてきた内容もありますが、3学期に継続できていることも多々あります。例えば、4校時に教室移動があれば、事前に給食の準備をしている姿があります。また、明日の持ち物を給食の待ち時間に記入するなど、班員と話したい気持ちではなく、時間を有効活用して行動することができています。

あと2か月後に新たな後輩を迎えるにあたって、自分たちの力も更に成長させる必要があります。そのために、3学期では防災講習会やゴールボールなどの行事を実施したり、総合学習発表会に向けては実行委員会を立ち上げ、生徒自身で企画・運営をしてもらったりする予定です。何事にも一生懸命な力を発揮し、一人一人が役割をもち、個の力を集団の力に変え、互いに高め合える学年になることを楽しみにしています。

### 3学期の生活

- ①やるべきことを考えて行動できるようになる  
(やりたいこと・やるべきこと)
  - ②行動の開始を早くしよう  
(座った後に何をするか。4時間目が終わったら何をするか。)
  - ③先を見通した行動をしよう  
(その行動をした結果、どうなるのか。)
  - ④説明ができるようになる  
(4月からの後輩のために…)
- ～後輩に伝わるのは自分の行動～



## 第2学年

### スキー教室を終えて

2学年では、1月14日から16日にスキー移動教室を実施しました。実行委員が考えた生活のきまりを守り、生徒一人一人がしおりを確認しながら主体的に行動することができました。今回のスローガンは「挑戦と協力!思い出に残るスキー教室に」でした。初めてスキーに挑戦する生徒も多く、スキー技術の習得や豊かな自然とのふれあいを通して、充実した時間を過ごしました。また、集団生活において、「やってもらえることが当たり前」と考えるのではなく、感謝の気持ちをもって行動する姿が多く見られました。今後の行事においても、他者への思いやりをもち、互いに協力しながら、多くの行事を成功させてくれることを期待しています。



## 第3学年

3学年では、総合的な学習の時間で、「世の中に注目してみよう」をテーマに新聞学習を始めています。社会で起きている出来事に関心を持ち、幅広い知識を身に付けること、そして集めた情報をもとに自分の考えを持ち、相手に伝える力を育てることをねらいとしています。3年生の各教室には毎日朝刊が届きます。時々新聞を手にとっている生徒はいるものの、多くの生徒には馴染みが薄いようです。現代では、インターネットを通して手軽に情報を得ることができですが、その一方で、情報の信頼性を見極める力がより一層求められています。新聞は、記者の取材と多くの目による確認を経て届けられる、信頼性の高い情報源です。生徒たちが新聞に親しみ、これまで関心のなかった出来事や多様な視点に触れることで、社会を主体的に考えるきっかけとなることを期待しています。



## 【二中学生の活躍】

### 【吹奏楽部】

2025TAMA アンサンブルフェスタ 金賞、最優秀賞、八王子市長賞  
第59回東京都中学生アンサンブルコンテスト 金賞、都大会進出

### 【女子バレーボール部】

IRUMA NEXUS WINTER CUP 2025 1位リーグ 第3位



## 2月の主な予定

※ 詳細は、配布済みの月行事予定表を御参照ください。

- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 2日(月) 都立推薦入試発表       | 5日(木) ゴールボール教室(第1学年) |
| 6日(金) 漢字検定、TGG(第2学年) | 7日(土) 公開授業 人権課題講演会   |
| 19日(木) 認知症サポーター      | 20日(金) 新入生説明会        |
| 21日(土) 都立一次入試        | 24日(火)~26日(木) 学年末考査  |
| 27日(金) 保護者会(第1学年)    |                      |

## 第1学年 防災教室

第1学年では、1月20日(火)に自衛隊の皆様をお招きし、防災教室を実施しました。防災教室では、①ロープの結び方 ②寝袋の設置 ③防災についての講義 の3つの体験を各クラスが、20分のローテーションでまわりました。

体験と講義により、防災への意識が高まってくれればと願っています。生徒の皆さんも意欲的に楽しそうに取り組んでいました。



## 第2学年 茶道体験

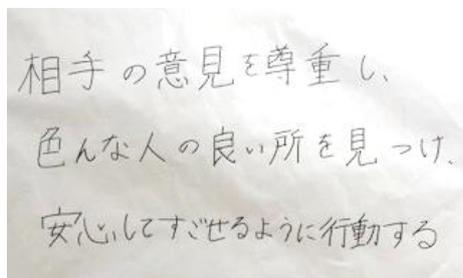
第2学年では、1月26日（月）に、福生市茶道連盟の皆様7名をお招きし、茶道体験を実施しました。この体験は、毎年行われているもので総合的な学習の時間で、地域から学ぶ学習の一つです。

生徒の皆さんは、慣れない茶道の作法に従いながら茶菓子を楽しんでいました。



## いじめ防止サミット

今年度で第4回を迎えるいじめ防止サミットが、1月13日（火）に開催されました。今年度は、事前に各小中学校の代表者が「新 いじめを許さないまち ふっさっ子宣言」を作成し、その時の様子を動画で観て、「新 いじめを許さないまち ふっさっ子宣言」についての説明をもとに、クラスごとにいじめを防止するための取組を話し合い、決定しました。決定した取組は生徒会朝礼で発表する予定です。

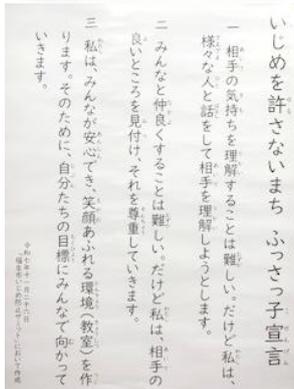


「クラスの取組」

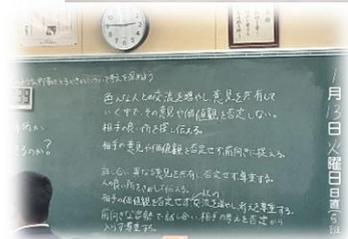
「新 いじめを許さないまち ふっさっ子宣言」は、11月26日（水）に市内の小学校児童会、中学校生徒会、福生高校と多摩工科高校の代表生徒が福生市役所に集い、作成してくれました。本校からは、3年生の鈴木颯太さん、2年生の瀬口ひなたさん、1年生の高橋愛莉さんが、代表者として活躍してくれました。



また、瀬口さんは、1月13日のいじめ防止サミット当日、全校生徒に向けて校内放送で、「新 いじめを許さないまち ふっさっ子宣言」がどのようにつくられてきたか、いじめのない学校や学級をつくっていくために何を大切にしてほしいかを話してくれました。とても立派に分かりやすく説明してくれました。そして、クラスごとの取組を作成する際は各クラスの学年委員が学級討議の進行を務めてくれました。学年委員の素晴らしいリードで全クラスが、「クラスの取組」を作成することができました。



生徒会の皆さんの準備や当日の活動と全校生徒のいじめ防止に向けた真剣な話し合いに心から敬意を表したいと思います。皆さんの本当に素晴らしい取組に心から感謝します。ありがとうございました。そして、このいじめ防止サミットで話し合い、作成した「クラスの取組」をいつまでも忘れずに実行してください。一人一人が協力して実行してくれることでいじめのない安心・安全な学校になることを信じています。



クラス討議の様子